クラス番号	624	担当教員名	野尻　紀恵
テーマ	子どもの育ちのための切れ目のない支援システムの構築－地域における実践から考える－		
著書・論文 研究課題等	『スクールソーシャルワーカー実務テキスト』（共著：学事出版 2016）、「福祉教育の当事者としての子ども－子どもの生活課題を視野にいれて－」『日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要』Vol.23(大学図書出版 2014) 「貧困の中に育つ子どもを支える連携支援プロセスの視覚化－スクールソーシャルワーカーとコミュニティソーシャルワーカーの学び合いプロセスを中心として－」『日本福祉教育・ボランティア学習学会研究紀要』 Vol.26(大学図書出版 2016) 【研究課題】 １．子どもの貧困の連鎖を断ち切る「食でつながるコミュニティ」創出の研究 ２．日本におけるスクールソーシャルワークの方法論 ３． 学校事故事件の被害者家族の一員としてのきょうだい児の支援に関する研究		

ゼミナール概要

キーワード：子どもの貧困、スクールソーシャルワーク、福祉教育、居場所支援

〈私の課題意識とゼミの目的〉子どもは人間としての誇りを持って育つ権利を有しています。しかし現実には、子どもは様々な困難を抱えています。実際の子どもの生活課題は複雑なのです。子どもの抱える生活課題の背景には、貧困や生活格差の問題、子どもに関心が向けられない地域や家族の実態というような、生活実態の困難さが多々存在します。さらには、社会の崩壊、地域社会や家庭・親子関係にまで及ぶ人間関係の疎外なども視野に入れなければなりません。重要なことは、子どもの生活の問題を全面的にとらえること、子どもの現実についてリアルに捉えることです。それらをしっかりと踏まえた上で、子どもを取り巻く環境（家庭、学校、地域など）への福祉的アプローチ、および切れ目のない支援システムの構築について検討することを目的とします。

〈ゼミの進め方〉 ゼミのみなさんと協議しながら進めていきます。ゼミのみなさんへの方針は、「共に、丁寧に、 考え、行動する」です。ゼミで具体的に行う活動やその活動の進め方・目標は次の３点です。

① 子どもが過ごす地域や学校といった現場や、スクールソーシャルワーク実践現場にフィールドワークに出かけ、課題に向き合ってディスカッションをすることを大切にします。また考えをきちんと文章に表現できることを目標にします。フィールドで学んだことを文献で確認し、考えたことをしっかり文字に表し発表します。

② ゼミでは金曜日に「子どもの夜の居場所支援」を学生主体で実際に行います。この活動に必ず参加し、そこでの実践活動を通して、子どもへの切れ目のない支援構築のあり方について研究します。

③ ①②の実践活動と文献研究をしっかり行うことで、卒業論文を執筆します。よって、相当枚数の卒業論文を執筆することが求められます。

〈ゼミの計画〉３年、４年生ゼミ共に、毎週金曜日の夜は子どもの夜の居場所支援の実践を行います。

２年次　３月７日（火）～9日（木）現３年ゼミ生（可能な４年生）と合同合宿　＠滋賀県高島市＆大津市

３年次　前期：文献講読、グループ研究、フィールドワーク
夏季：研究フィールドワーク合宿　＠１泊知多半島
後期：文献講読、卒論テーマ設定および研究計画を立てて卒業研究を進める、フィールドワーク
３月 ：ゼミ合宿　（場所はゼミ生と共に確定する）

４年次　前期：卒論のテーマに沿って研究を進める、各自の研究についてゼミ内でディスカッション
8月：卒論合宿　＠１泊美浜町　9月：卒論ディスカッション　10月～12月：ゼミ内卒論発表
2月：卒業合宿

担当教員からのメッセージ

大阪府茨木市でスクールソーシャルワーカーとして活動をしてきたこと、愛知県内の市町でのスクールソーシャルワーカーへのスーパービジョンを通して、「子どもの抱える生活課題」への支援のあり方、また、それぞれの子どもが持つ「強み」を見つめ、子どもをエンパワメントする支援とはどのようなものであるのかについて考え、実践を試みてきました。子どもを中心に据えたソーシャルワークについて一緒に考えましょう。そして、地域で一緒に実践してみましょう！また、野尻ゼミでは、地域の大人のみなさんとの交流もとても大切にしています。